

平成27年度

事業報告書

社会福祉法人 福陽会

特別養護老人ホーム サンシャインビラ

短期入所生活介護 (ショートステイ)

事 業 報 告 目 次

項 目	ペー ジ
事業報告	
1、 事業報告（総括）	1~3
2、 職員構成	4
3、 会議・懇談会・委員会開催状況	5
4、 職員健康管理・職員福利厚生	6
5、 保険者別入退所状況	7
6、 利用者外出・外泊・面会状況	8
7、 看護報告	
1) 利用者健康管理報告	9~10
8、 利用者ケア	
1) 介護主任	11~12
2) 生活相談員	13
3) 介護支援専門員	14
4) 1階フロアの報告	15~16
5) 2階フロアの報告	17~18
6) 3階フロアの報告	19~21
9、 リハビリテーション報告	22~24
10、 栄養事業報告	25~26
11、 職員外部研修参加状況一覧	27~28
12、 内部研修報告	29~30
13、 各会議報告書 (事故・苦情・拘束・褥瘡・排泄・厨房・研修・看護と介護の連携・口腔・忘年会・職員旅行)	31~41
14、 クラブ活動 (茶道・華道・手芸・書道・音楽療法・朗読・紙芝居読み聞かせ・手作りおやつ お料理・外出・園芸・駄菓子屋・スポーツ)	42 43~55
15、 防災管理報告	56
16、 年間行事実施報告	57
17、 行事日程と実績	58
18、 ボランティア受入れの状況・慰問受入状況	59~63
19、 地域行事参加状況	64
20、 実習生・研修生受入状況	65
21、 施設設備改善及備品購入状況報告	66
22、 ショートステイ事業報告	67

平成27年度 事業報告(総括)

1. 基本目標

本年度の重点目標である「やさしさと笑顔あふれる介護」を合言葉に全職員で取り組みました。

利用者様の個性を大切に『その方らしい生活』を支援しました。

福陽会基本理念

- ① 利用者様の心身共に健康な生活を保持する
 - ② 利用者様の個性を尊重した生活を配慮する
 - ③ 生活に希望と生き甲斐を持てるよう環境の整備と季節感ある行事を行なう
- を全員で朝礼において唱和することで新人職員にまでにも周知ができました。

年間を通しての利用者様は以下の通りである。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3029	3093	2996	3087	3068	2975	3059	2965	3064	3049	2902	3099	36394

年間延利用者数 36394 人でした。

平成27年度は1年間366日でしたので、1日平均99.43人の利用者様にケアを提供させていただいた結果となりました。

要介護4の方が、26名・要介護5の方が59名と、入所者の85%を要介護状態の重度の方が占めています。

ターミナルケアの希望も多くあり、14名の方を看取させていただきました。

医療ニーズは今年度においても高く、施設顧問医師への依存度が大きくありました。

ターミナルケアにより看取させていただいた利用者様のご家族様等から感謝の言葉や満足の言葉を多くいただき、職員一同の励みとなりました。

2. 基本方針

基本方針である「明るい笑顔の絶えない家族・ふれあいのある大きな家庭づくり」を目標に、地域社会との交流を深めました。

- ・職員ひとりひとりが利用者様の意向を把握し、尊重するケア提供を行いました。
- ・各行事、地域の方々に参加していただき、地域との交流を深めました。
- ・地域行事への参加も、積極的に行う事が出来ました。
- ・尊厳を保持し、自立を支援できるよう介護職員の内部研修とOJTを強化しました。

3. 長期目標

- (1) 法人理念の実現向け、各事業所同志が連携を強化しました。
- (2) 地域との交流を大切にし、地域の福祉ニーズに応えるべく努力しました。
緊急の入所等に対応する体制をつくりました。
- (3) 毎月発行する『サンシャインビラだより』により、施設外に情報を発信するとともに、

東京都社会福祉法人の高齢者福祉部会ホームページの利用と新たになった福陽会のホームページにより情報を発信しました。

4. 中期目標

福陽会キャリアパスの運用により、人材育成と人材の定着が図れました。

5. 重点目標

職員一同力を合わせ『やさしさと笑顔あふれる介護』を合言葉に、サービスの質の向上に取り組みました

- (1) 介護報酬の改正に添い正しい運用をしました。各加算の獲得に取り組み体制を整えました。
- (2) 稼働率は各部署の連携により安定しました。100%の目標でしたが99.43%でした。
- (3) 各会議や記録の入力よりチームワークを強化しました。

- (4) 施設内・各部署うまく情報の伝達ができ情報の共有化が図れました。
- (5) 平成28年3月の運営会議において、平成27年度の最終評価を行い、各部署ともに目標の達成ができました。

職員の健康管理・労働環境の整備等労働衛生管理について

(1) 定期健康診断実施の措置

定期健康診断の結果が明らかになる時期に、施設顧問医師 兼 日本医師会認定産業医から、有所見者全員を対象に就業上の措置に関する指導を受け、その後、具体的な措置の内容を施設長と相談の上、実施している。

(2) 定期健康診断の結果の労働者への通知

従前より、受診者を対象に定期健康診断の結果を、通知している。

(3) 定期健康診断の結果に基づく保健指導等

対象となる労働者全員に、定期健康診断を実施。

衛生管理者が受診者中の有所見者に対して、産業医により個別に健康教育・保健指導等が実施された。併せて、全体会議・衛生会議・感染対策会議にて産業医の指導を受けて、衛生管理者が有所見率改善に向けた食生活などの資料を配布し、健康管理に関する情報の提供を実施している。

27年度は、4月に63名の健診実施後、産業医が衛生会議や利用者の診察時間後に施設に残る等の対応をし、職員の休憩時間や勤務交代要員の工夫によって、有所見者が産業医との面接を行うことができた。15名の職員に要治療・要検査等、産業医からの指示があった。秋の健診では8月に、夜勤業務を行う職員33名が受診し、春と同様に有所見者が健診後の面接を終え、2名が産業医からの指示を受けた。その後の経過についても、産業医から職員へ必要事項の伝達や指導が行われ、相談できる体制が整っている。

(4) 館内の労働環境整備

① 年間を通じて空調整備を行っている。

インフルエンザ等の感染症対策・利用者及び職員の体調管理の為、産業医の指導下で、湿度や温度管理、カビ対策を行っている。フロアや居室の位置により温度・湿度に差があるので、1日3回各居室の温湿度計測を継続し、空調整備を行った。

② 職員の事故防止の為に、日常的に設備・備品の点検を行い、不備や不具合に対応している。各職員が、設備等にいつもと違う状態を発見すると、すぐに報告することが習慣化しており、その点が事故防止に大変役立っている。労働災害についても対策を立て、職員全員で努力を継続しており、職員に危険が及ぶ状態にあると思われる備品・設備については、早めの報告により事故発生の防止に努めている。

平成26年度から、冬期に出勤時の体温チェックを行って、感染症予防に努めている。

今後も、産業医からの指導内容を周知させ、体調管理や労働環境改善を図っていく。職員一人一人が広い視野を持ち、施設内の変化を把握して先見性を持った対応ができるように実践的な計画作成を継続する。

平成27年度 保険者別入退所状況

H27.4.1～H28.3.31

市区町村	入 所		退 所 (含死亡)		合 計	
	男	女	男	女	入 所	退 所
昭 島 市	1	2	0	0	3	0
あ き る 野 市	0	1	0	1	1	1
青 梅 市	0	0	0	1	0	1
大 田 区	0	0	0	1	0	1
江 東 区	0	0	0	1	0	1
墨 田 区	0	0	0	1	0	1
世 田 谷 区	0	0	1	0	0	1
立 川 市	0	1	0	0	1	0
中 野 区	0	0	0	1	0	1
八 王 子 市	0	0	0	1	0	1
羽 村 市	1	0	0	1	1	1
福 生 市	2	8	0	6	10	6
三 鷹 市	0	0	0	1	0	1
武 蔵 野 市	0	1	0	0	1	0
山 梨 県 中 央 市	0	1	0	0	1	0
合 計	4	14	1	15	18	16

平成27年度 利用者外出・外泊・面会状況

項目 月	外出		外 泊		面 会		
	人 数	延回数	人 数	延日数	対利用者	延人数	1 日平均
4	3	3	0	0	61	242	8.1
5	6	8	0	0	56	240	7.7
6	4	4	1	1	58	226	7.5
7	3	3	0	0	64	260	8.4
8	2	2	0	0	67	274	8.8
9	2	3	0	0	59	269	9.0
10	6	6	0	0	64	316	10.2
11	0	0	0	0	58	303	10.1
12	1	1	1	1	72	341	11.0
1	4	4	0	0	63	320	10.3
2	2	2	0	0	58	275	9.8
3	0	0	0	0	60	294	9.5
合 計	33	36	2	2	740	3360	9.2

平成27年度 看護の報告

1. 医務診察

医務診察で医師の診察を補助し、体調管理・服薬管理・医療処置等を適正に行い、健康管理をしました。

① 内科	木曜日	鈴木隼医師
	水曜日	青山美穂施設顧問医師
② 精神科	月曜日	高妻雅和医師
③ 歯科	水曜日・木曜日	油尾俊也歯科医師・中台みどり歯科医師

2. 利用者様一般状態

嚥下機能の低下に伴い嚥下困難な方が多くなっています。

誤嚥の防止するために医師・歯科医師と連携を図りました。

介護職員に食事介助方法を指導したり、その方に合った食種形態に変えたり、看護師・看護職員による食事介助をしたりという取り組みを行いました。

歯科医師・歯科衛生士・介護職員に加え、看護師・看護職員も連携し、口腔ケアの実施により、誤嚥性肺炎の予防につながったと思います。

今年度からは更にミールラウンドも6名が開始し、VEの検査を受けた方も5名ありました。中でも入所前の医療機関からの指示で「側臥位」での食事姿勢であった方がVE検査の結果、車椅子に移乗して食事を召し上がる事が出来るようになり、QOLの向上と共にご本人様の意欲の向上につながるという成果がありました。

3. 多職種との連携

利用者様の日々の様子は、1日2回の申し送りによって把握し、異常の早期発見に努めました。情況により、医師への報告や指示受けで対応しました。

施設内では、パソコンで情報の共有化が強化できました。

4. 利用者様の健康管理

- ① 月1回は医師の診察を受け、バイタル測定し、経過報告を行いました。
- ② 年1回の利用者健康診断は、平成27年7月8日（火）に実施しました。
- ③ 入所時には、ご家族様等に説明し同意をいただき、「入所時健診」を受けていただきました。その結果は、施設顧問医師からご家族様等へ説明をしていただきました。
また、「緊急時・看取り介護時の医療行為等に関する意思確認書」と「看取り介護についての同意書」の説明も入所時に施設顧問医師からご家族様等が説明を受け、意向の書類を作成しました。
- ④ 外部医療機関への受診や入院等は、利用者様とご家族様等の意向を確認しながら対応しました。
- ⑤ 利用者様・ご家族様等の希望を確認し、インフルエンザの予防接種を97名の

接種をしました。

- ⑥ 肺炎球菌の予防接種もご希望により 10名接種しました。

5. 職員の定期健康診断

- ① 職員は4月（全職員対象）と8月（夜勤業務に従事する職員対象）に健康診断を行いました。健康診断の結果は、衛生会議で産業医の青山美穂医師から全体指導があり、それに加えて有所見者に対しては個別の面談指導がありました。
- ② 職員のインフルエンザ予防接種は体質的に接種できない者以外の61名が接種しました。

6. 感染症対策

感染症に対する内部研修の実施とマニュアルの遵守により、全職員は意識を高く持っています。例えば嘔吐があった場合、感染症を想定し「感染対応」を即座に開始します。念には念を入れた対応で感染症の発生とまん延を防止できました。室温・湿度等の環境整備も施設顧問医師の指導の下で徹底できました。

7. その他

- ① 皮膚の発赤・小さな剥離等を早期に発見し早期に対応することにより、悪化を防止することが出来ました。
施設顧問医師の指導助言をいただき、栄養の改善にも取り組みました。
- ② 施設顧問医師・看護師・看護職員・リハビリ・栄養・ケアマネ・生活相談員・介護等の連携により、ヒヤリハットから学び事故防止に取り組みました。
骨折により、保険者の届け出をした骨折事故が5件ありました。
- ③ 利用者様・ご家族様等の希望により、施設内で14名を看取させていただきました。職員の精神的な負担が大きくあるものの、ご遺族様等からの満足感や感謝の言葉に職員一同の励みになっています。
- ④ 医療ニーズの高い利用者様も施設顧問医師を中心とする連携により生活していただくことが出来ました。

鼻腔からの経管栄養 1名

胃ろうからの経管栄養 3名

バルンカテーテル 2名

人工透析 1名

- ⑤ パソコンでの情報管理により、記録の効率化が図れています。

平成27年度 介護主任事業報告

平成27年度は、「やさしさと笑顔あふれる介護」を目標に職員一同力を合わせて取り組んできました。各フロアのリーダー、サブリーダーそれぞれが利用者様の思いや状況状態を把握し今何を求めているかと言う事を感じ取り理解する事を心がけ 忙しい業務の中 時間の工夫し職員間で声を掛け合いながら利用者様一人一人にかかわる様支援することが出来ました。

細かいところでは利用者様の一人一人の整容面や環境整備の部分では行き届かない部分もあり苦情につながることがあり反省する部分もありました。

職員が自らの仕事を常に振り返りながら向上することで、利用者様の多くの笑顔が見られるよう来年度も継続していく。

○人材育成

人員の確保定着は依然として厳しい状況ではある。しかしそんな中でも当施設の職員の協力体制は優れており厳しい状況でも何とか利用者様の生活や環境に変化なく対応できた。

職員の負担が軽減できるよう記録や業務の組み立て等見直すことができた。

今後の課題は人材の「量」はもちろんですが、その「質」にも目を向けて研修等を行い 又職員一人一人が前向きに自分たちのやりたいと言う気持ちを引き出し定着を目指し継続していく。

○事故防止

申し送り等で利用者様の状況と変化を把握する事でそれぞれの職員が小さな変化も捉え他職員にも伝達を行い事故防止に努めた。

ご自分で歩行される方の転倒や骨折が繰りいたりと見守りが出来ない所での防止が出来なかつたり、同じ利用者様のヒヤリハットの事故が起きることもあり対策に悩むこともあります。何度も検証したり話し合いの場をもち検討し対策をした。起こった出来事をしっかりと把握し事故を防止しより良い介護につなげていくことが出来たと思います。

拘束も「0」を継続することができた。

○感染予防

衛生会議 感染症対策会議にて情報を得 職員間で共有する事で予防することができた。

感染症の持ち込みと拡大を防止するために職員自身も健康管理を強化した。

風邪など感染症は早めの対応で拡大を防止し常に手洗いうがい等の徹底を図り必要時のマスク使用をしっかりと守ることを実行できた。

○災害時に備えて

もしもの準備とし物品をフロア一内に準備した（排泄用品等）

防災の訓練等を行い各設備や屋内消火栓の使用方法を学んだ。

職員間で検討や訓練を行った。

平成27年度 生活相談員事業報告

利用者様の生活を様々な側面から支えるために、二名の生活相談員と一名の全フロアー生活相談員が役割を分担し、常に連携を図りながら、業務に取り組みました。

平成27年度は4月と8月に介護保険制度の改正がありました。それに伴い、全ての利用者様・代理人様に対して、契約の変更手続きを行いました。さらに介護報酬改定後の各種請求手続き及び預り金管理等の業務を適正に行うことができました。

利用者様に対する相談援助においては、利用者様からの苦情や不満、希望や要望といった様々な訴えを真摯に受け止め、誠実に対応することを心がけました。また、言葉で自分の胸の内を訴えることの出来ない方々に対しては、その方の内面をいくらかでも知るように努めました。日々の申し送りや医務診察に参加させていただくことで、利用者様の生活の様子とその変化について、情報を得ることが出来ています。一人一人の真のニーズを把握し、それをケアプランに反映できるように、アセスメントに取り組みました。毎週行われるケアプラン会議に参加し、ケアマネージャーを中心に多職種で行うチームケアに協力しました。

ご家族様等に対しても、電話で必要な連絡をしたり、面会時にお声をかけ生活の様子やその他の情報をお伝えすると共に、ご意見やご要望を伺い、必要に応じて多職種で問題解決に当りました。ご家族等の気持ちに寄り添い、常に話しやすい存在であるように心がけました。

入所関連業務として、入所相談、施設見学の案内、入所判定会議の開催、入所決定後の情報収集と連絡相談、入所当日の面接や契約手続きその他の業務を行いました。退所関連業務では特にご家族様のお気持ちを大切にし、多くのご家族様等から、施設の介護に対して感謝の言葉をいただきました。平成27年度も年間を通して、高い稼働率を維持することができました。

施設の生活の中で、利用者様に少しでも多くの楽しみを感じていただけるように、各種行事やクラブ活動、慰問において役割を果たしました。特に、外出その他のイベントではあらかじめポスターを張り出することで、利用者様が自分から参加を申し込み、楽しみにしてくださっている様子を見るっていました。利用者様の内にある意欲を引き出すことができたのではないかと思います。

福祉施設として、介護福祉士初任者研修の実習、大学生の教員免許取得の為の介護等体験、中学生の職場体験、高校生のインターンシップの受入れを行いました。また、ボランティアや市の介護サポーターを受入れ、活動の支援を行いました。こうした交流が利用者様にとって社会と繋がる大切な機会であること、また、地域福祉に対して果たす施設の役割との観点から、誠意を持って対応しました。

介護支援専門員事業報告

介護支援専門員としての業務をしっかりと行うために、まずご利用者様との関係を作っていくことから取り組みました。

お話を傾聴する姿勢を基本にし、「この人は、私の話をしっかりと聞いてくれる人」と思って頂けるよう努めました。

ケアプランの作成をする上では、ご利用者様の出来ない事や援助が必要なことは勿論のこと、「できる事=その方の強み」を生かした内容で作成できるよう努めました。今後も他職種と協力しながら、取り組んでいきたいと思います。

・定期のケアプラン見直し（三ヶ月、六ヶ月）実施は漏れなく行えました。また、状態変化に伴うケアプランの変更も行えたと考えています。

・ケアプラン会議への、ご本人様参加、ご家族様参加については目標を達成はできませんでした。今後は目標を達成できるよう、お声掛けを積極的に行っていきたいと思います。

・会議日程の作成に関しては、ゆとりをもった件数（五件程度まで）になるよう日程調整を行いました。

・ターミナルケア（看取りケア）、褥瘡ケア、ミールラウンド、適宜プラン作成が行えました。

ターミナルケアについては、ケアの振り返り、対応職員へのグリーフケア等、ひとつひとつのケースにつき、継続的に検討が必要であり、今後も取り組んでいきたいと思います。

褥瘡ケアについては、作らない事を前提にリスクが高い方については予防策を行う。創部改善には各部署連携し対応ができるよう、今後もプランを作成します。

ミールラウンドについては、経口からの安全な食事摂取が継続できるよう、各専門職が検討した結果を今後もプランに反映させていきます。

・緊急ショートステイの受け入れについても、可能な限り、柔軟に対応が行えたと思います。各関係者の皆さんとも情報交換をし、ショートステイ利用期間中のプラン作成が行えました。

・認定調査への立ち合い、調査協力を都度行いました。今後もスムーズな介護保険更新が行えるよう、実施していきます。

1階事業報告

◎「やさしさと笑顔あふれる介護」を目標として取り組みました。

- ・居室担当者の役割では、出勤日に意識し利用者様とかかわりその様子をありのまま入力し個人記録の充実を図りました。又、しんしんの状況の変化により、個別の計画の変更が必要と感じたらアセスメントし提案しました。利用者様の私物管理と整理整頓・床頭台とベッド周り等、居室内の環境整備、利用者様の整容面への配慮は意識が足りない面が多く、今後の課題で有る。
- ・褥瘡予防への取り組みでは「作ってはいけない」という事を職員間で周知し皮膚状態に変化を感じたら多職種連携して即対応し改善に取り組みました。又、発生してしまった原因を徹底的に突き詰めて再発防止へ取り組みました。
- ・感染予防策の徹底では発熱等、感染症の症状に対し、即感染対応しナースの指示を受け標準感染予防策を徹底し、まん延を防止しました。又、対応者への精神的ケアも意識し行いました。職員は手の触れる場所の消毒を行い、自身が感染源とならない様に自己管理を行い、体調が優れない時は早めに医療機関を受診し療養に専念しました。
- ・事故を防止する点では自身で動かれる方の骨折・搔き傷等のトラブルが多く有りました。取り組みとしては、ナースと連携し爪を清潔にしトラブルを防止しました。自分で動かれる方への危機感が足りなく「大丈夫」と安心してしまっている点を改善する必要が有り、意識を変えて行く事が今後の課題で有る。口腔ケア面では歯科医師や歯科衛生士から指導を受け正しく口腔ケアを行いました。又、食事介助の方法等も指導を受け、誤嚥を防止し、誤嚥性肺炎も防止しました。
- ・質の高いサービスを目指す点では「決まり事は守る」「利用者様優先」「職員間の連携」の3点を柱にチーム全体が同じ目標に向かい取り組みました。又、ベテラン職員は新人職員へ指導・助言を行い各職員が介護技術と介護知識の向上を図りました。今後はリクエーションやフロアーでの活動を充実する点、看取り介護の方への適切な対応を行う点が課題で有り、チーム全体で更なるステップアップを目指します。

・災害時の準備については排泄用品を3日分確保し定期的に確認しました。又、防災グッズの位置や防災用品を定期的に確認しました。各居室の床頭台の棚等の耐震対策用具を確実に使用しました。

2階事業報告

- ・利用者様にしっかりと目を向け、訴えに耳を傾け安全・安心な生活を送っていただけるよう「やさしさと笑顔あふれる介護」を目標に業務に取り組んだ。
- ・業務中職員の言葉使い、声掛けが荒くなり語尾が強くなってしまう事もありましたが都度話し反省し見直しを行った。また業務も一部見直し職員が気持ちにゆとりがもてるよう業務も見直しも今後行っていきます。
- ・行事やクラブ活動についてもできるだけ多くの利用者様に参加」してもらい、食事量が少ない方・元気がない方についても職員から「～さん最近食事が少ないので聞いても良いですか」など、利用者様目線でより気持ちに近づけるような援助を行う事が出来た。
 - ・フロアーレクについても声掛けをし自立性を大切にし歌集を使用し定着しつつあります。職員の意識も高まりフロアーの活性化にも力を入れ工作など物を作ったり、将棋を指したり個々に合った楽しみ方も今後多く取り組み行っていきたいと思います。

○居室担当者の責任

- ・シーツ・床頭台等以前に比べ汚れたらその場で行い、汚れに対しての意識は高まりました。今後も忙しい業務においても一つ一つ丁寧におろそかにならないよう注意して行っていきたいと思います。
- ・記録の入力については担当者により力の差は感じられます。声掛け意識を高くもつよう指導を行いました。

○事故防止

- ・骨折の事故がありました。原因の検証・防止策の検討を行いました。職員の注意意識不足も感じられます。職員の介護技術力向上にも力を入れ再発防止の為、今後の課題に取り組んでいきます。

○感染症予防

- ・食事の手洗いについては利用者様も毎日の日課として定着し、声掛けを行い自ら行える方については洗ってもらい、洗えない方については手拭き消毒にて行い感染予防に努め実行しました。
- ・手洗い・うがい出勤時、必要時にはマスク着用の徹底し新入職の方には標準感染症防止策を指導し徹底を行いました。
- ・他職種との連携いち早い対応により感染症の拡大と蔓延はありませんでした。
- ・業務の中においても基本技術を伝え技術向上に努めるよう職員間で行い、他部署とのチームワークも良好に保ち、利用者様とのかかわり方も今以上により親密に深く信頼感が作れるよう寄り添った援助が出来るよう一つ一つ確実に行いつづけたいと思います。
- ・申し送りが新しい方法になり、申し送りが漏れ無く、その場で再確認をし安全に利用者様の様子や状態を知り対応し他部署との連携力よりスムーズになり良かったです。

3階事業報告

この一年間「やさしさと笑顔あふれる介護」を目指し、基本に忠実で、心のこもった丁寧な介護を心掛けてきた。

<一人ひとりの想いに寄り添う>

- 新人職員に対してベテランの職員より「たとえ認知症があっても、介護者の持っている雰囲気や感情、言葉の暖かさ、冷たさというものはとてもよく伝わる。」ということが伝えられ、一人一人の利用者さんがどんな想いを持ち、どんな願いや希望を持っているかを常に理解していこうとする姿勢が大切だという指導が成された。
- 出勤時に職員がディルームに顔を出したり、居室を訪れたりして、明るく元気な挨拶をする姿がよく見られた。そして、その時の印象をもとに、その日の気分や体調を把握しようとする姿勢が感じられた。
- 毎日、午前のお茶の時間の後や午後のおやつの後に、レクリエーションを行い、ビーチボールでのキャッチボール、風船バレー、合唱などを進めて沢山の笑顔と豊かな表情が引き出され、はつらつな動きも多く見られた。
- 不安感や帰宅願望を頻繁に訴えてくる方に対して、しっかり耳を傾け、共感を示しつつ安心感をもたらすよう言葉をかける職員の姿が毎日のように見られた。しかし、時々あまりの頻繁さにイラだったり、言葉がキツくなることもあった。感情のコントロールを皆で学ぶことの必要性を感じた。

<居室担当の役割>

- 個人記録の入力は毎日の暮らしの様子が分かるようにと呼びかけたが、おろそかになりがちな職員が数名いて指導を要した。
- 月末評価の入力方法が変わり、項目ごとの評価なったがしっかり理解がされていなくて、全員が決まった通りの方法で入力できるようになるまで3ヶ月ほどかかった。
- 定型業務に追われ、居室や利用者さんの整容面への配慮が足りなかった。その為、ご家族様からの指摘、苦情といった形で職員が気づかされことが3月に入って2回続いた。

このことは職員に強い反省を促し、現在、整容面やフロアー全体の美化を強化する方向へと進みつつある。

<口腔ケアの徹底>

- 毎食後、利用者さん全員に対して口腔ケアを実施した。また食前の口腔ケアとしてアイスマッサージが必要な方2名に対して、毎食前確実に行ってきました。
- 歯科医師や歯科衛生士からの指導通り、一人ひとりに合った正しい口腔ケアの方法を実行するよう心掛け、呼びかけてきたが、全職員が確実に行えるようになるまでもう少し時間が必要である。
- 昼食前と夕食前に嚥下体操を明るく楽しい雰囲気で行ってきた。
- 每食時、咀嚼や嚥下の状態、食べこぼしの有無などを観察し、状態の変化に素早く対応できるよう努め、各部署との連携も密にしてきた。

<事故防止>

- レクリエーションを充実させることで、利用者さんに「楽しい・うれしい・快地良い」といった感情と精神的な安定をもたらし、事故も防ぐことにつながるのではと考え、レクリエーションを強化させてきた。そのことで日中の自己は減ったと思われたが、夜間職員の目が届きにくい場所での転倒による骨折事故が3件あった。また転倒の危険がさほど大きいとは思えなかった方々の転倒も目立った。それ以降、職員の意識の中に「3階の全ての利用者さんに転倒の危険がある」との意識が強くなった。
- ベッドからの転落事故もあった。大事に至らなかつたが、大変危険だと認識から、ベッドを一番低くしておくという作業が定着した。
- トイレを頻繁に使用する利用者さんが増え、付き添いや歩行の介助が必要な方が、一度に2、3名立ち上がり歩き出そうとする場面が多く見られるようになった。その為、デイルームに2人の職員が居ないととても対応できなくなった。できる限りその体制にするよう業務の見直しをするとともに、職員同士の声の掛け合いを活発にし連携を強めた。
- ヒヤリハットは多く出されたが、その原因分析や改善策と対応策の検討がいつも遅れがちだった。もっと素早く行い、周知徹底に努めたい。

- 移乗介助時にできたと思われる、腕や足などの皮膚の剥離や傷、内出血などが目立った。

介助する際の職員の安全確認と基本に沿った介助方法の徹底を進めている。

<感染症の予防>

- 12月末から1月末にかけて、風邪症状の方が相次ぎインフルエンザの患者も1名出た。

この時の感染症蔓延防止策が徹底できていない職員がうて、看護師からの強い注意と指導を受けた。それ以降、薄まりかけていた職員の感染症に対する意識が強まり、防止策の徹底が図られた。

- 毎日日直が各居室の室温と温度チェックし、換気や寝具の調整などに気を配ってきた。

またカンファ水の噴霧による消毒や消臭も盛んに行われた。

<非常時、災害時に備えて>

- 每月開催される防災会議にフロアーリーダーが参加し、そこでの内容をスタッフに伝え防災意識を高めてきた。

- 「発生時は、職員自身の身の安全を確保し、利用者さんの安全と精神的ケアをする。人命の救助を第一とする。」といったことを職員の共通の認識とした。

- フロア内の棚に3日分の排泄用品を確保している。

平成27年度 リハビリテーション事業報告

利用者様の日々の身体状況の変化と精神面の変化をアセスメントし、心身状態に変化が見られた際には訓練内容の変更等を行い、利用者様個々の状態に合った訓練を安全に行いました。

日常生活に定着した個別機能訓練計画書を作成し、状態の変化に応じて多職種での意見交換を行い、計画書の内容を検討しつつ、理学療法、生活リハビリでの個別機能訓練を行いました。

「優しさと笑顔あふれる介護」を目標に内部研修も実践し、他部署との意見交換も行うことができました。

- ・ 個別機能訓練の実施記録はパソコン入力し、情報を他職員と共有することで連携がスムーズとなり、利用者様の状況把握に役立つことができました。
- ・ ケアプラン会議に出席し、各担当者と意見交換を行い、状況に応じて訓練内容の再検討も行いました。
- ・ 個別機能訓練計画に基づき、理学療法と生活リハビリの訓練を行いました。
- ・ 個別機能訓練計画の内容は、利用者様・ご家族様に説明し同意を得、計画書をお渡しました。
- ・ 訓練を実施し、計画の長期目標と短期目標の達成を目指し、3ヶ月ごとに評価と達成度を確認し、次の計画作成時に役立つことができました。
- ・ 利用者様の状態変化時には、医務やケアマネージャー等と連携を図り、個別計画の中止や変更を行い、変更時には利用者様、ご家族様へ説明を行い、同意をいただきました。
- ・ 訓練室、ベッドサイド等にて理学療法での訓練を隨時行っていきました。
- ・ 訓練内容については利用者様の状態、ニーズを考慮し、棒体操、平行棒、段差昇降器、セラバンドなどを使用し行いました。
- ・ 大きな変化が見られた方は以下のとおりです。

(機能向上が見られた方) 6名

(機能維持が図れた方) 86名

(機能低下が見られた方) 8名

(骨折事故があった方) 5名

- ・ 季節感のある行事、その他活動を生活リハビリの一環と考え、行事や活動の準備等、利用者様が参加できるよう働きかけを行いました。
- ・ 車椅子使用者のシーティングについても生活相談員、理学療法士、医務等とニーズに合ったものを使用していただけるよう検討し、利用者様の座位姿勢が安定、改善に取り組みました。ただ、様々なクッション、車椅子などの検討を重ねましたが、座位姿勢が安定しにくい方もおり、今後は新たなクッションの購入、座り直し介助、シーティングについての内部研修などを行っていく予定です。
- ・ ギヤッジベッド、エアマット、自動体交機など褥瘡防止の福祉用具などの管理、

また利用者様の状態に応じてのサイドレールの調整も行いました。福祉用具の数などは下記に記します。

- ・歯科医師からVE、ミールラウンドの報告、訓練方法、姿勢保持の指導等を受け、臥床して食事を摂取された方が車椅子上での座位姿勢を指導、確認を行い、車椅子に乗車して食事摂取することができるようになった方もいました。
- ・感染症・事故防止・虐待防止・拘束の廃止等についての内部研修に参加し、他部署職員と共に知識や認識を持ち、対応しました。事故防止についてはヒヤリハットの検証へ参加し、事故の発生原因を検討し、再発防止策について多職種にて話し合いを行いました。拘束の廃止については委員会メンバーとして、拘束についての情報の発信を行っていき、拘束「0」を継続しました。
- ・褥瘡を防止するにあたり、褥瘡防止委員会メンバーとして利用者様の褥瘡予防、褥瘡が発生してしまった場合には早期の治癒を目指しました。委員として、皮膚に問題が見られた方については除圧が行えるよう、ベッドマット、クッションの変更などを素早く行いました。褥瘡防止用品についても購入の検討、古いものから新しい物への入れ替えを行いました。
- ・寝たきりの利用者様において、理学療法では関節可動域拡大訓練を中心に行いました。また拘縮予防を図る為の体位やクッション等の当て方については外部研修へも参加し、介護者に対しても内部研修等を行い指導しました。
- ・常に災害については念頭に置き、訓練室内の環境整備、非常口、消火器等の位置の確認、非常時においての行動を意識しながら業務にあたりました。

(福趾用具一覧表)

車椅子	99台	
歩行器（シルバーカー含む）	16台	
杖（T字杖、多点杖）	13本	
ポータブルトイレ	6台	
体圧分散マット（ジェルマット含む）	22	
エアマット（自動体交機能付き含む）	11	
施設内のベッド数		
電動ベッド	100台	
手動ベッド	4台	
パイプベッド	1台	総数105台

平成27年度 福祉用具購入記録（予算¥300,000）

	物品名	個数	金額
H27.4	四輪歩行器	1	¥26,800
H27.6	22インチ車椅子タイヤ（チューブ付き）	2	¥3,611
H27.6	16インチ車椅子タイヤチューブ	1	¥1,408
H27.6	自走式スタンダード車椅子	1	¥14,300
H27.6	自走式スタンダード車椅子	1	¥15,290
H27.6	車椅子用クッション	2	¥6,706
H27.7	自走式スタンダード車椅子	1	¥15,290
H27.7	体位交換用クッション	1	¥5,703
H27.7	体位交換用クッション	3	¥13,995
H27.7	体位交換用クッション	1	¥6,049
H27.7	車椅子用クッション	1	¥5,184
H27.8	体位交換用クッション	1	¥10,108
H27.8	自走式スタンダード車椅子	1	¥15,290
H27.12	体位交換用クッション	20	¥84,240
H28.1	体位交換用クッション	1	¥10,044
H28.1	体位交換用クッション	1	¥6,696
H28.1	体位交換用クッション	1	¥5,616
H28.1	トイレ用介助バー	1	¥41,580
H28.2	22インチ車椅子タイヤ（チューブ付き）	6	¥7,281
		合計	¥295,191

平成 27 年度 事業報告[栄養]

福陽会の理念と季節感を大切にした食事の提供、食事がすすむような、おいしいと感じて頂く食事の提供を目標に平成 27 年度は業務に臨んできました。

次年度も引き続き、旬な食材を取り入れた献立、利用者様からの聞き取りで得られた意見や要望に出来る限りそった献立の作成、器や盛り付け等、見た目からも「食べたい」と思っていただけるような食事提供を目標に次年度も業務に取り組んでいきます。

家庭的な雰囲気で温かみのある食事提供、食事を楽しんで召し上がって頂く為に、選択食の実施、フロアーパフォーマンス(利用者様の目の前で盛り付け)、春と秋のバイキング、特別な食事を行う際の告知ポスターの掲示、ソフト食を使用した安全で見た目の良い食事提供を次年度も継続して行っていく。

選択食等イベント食の実施結果

選択食：月 1 回以上

バイキング：年 2 回

誕生食：月 1 回

出前：月 1 回

* 詳細は別紙参照

予算管理

給食食材費の予算内運営を目指に、在庫管理の徹底や見直しを行いました。次年度も食品のロスの無い発注を行い、予算内運営を目指していきます。

利用者様の健康管理

委員会へ参加しより多くの情報を持つことや、多職種と問題に対する共通認識を持つことで利用者様の状態の改善や維持・向上に努めました。

フロアラウンドの強化

食事中だけでなく、様々な場で利用者様から感想を伺い、個人の嗜好の把握や、意見を受けての献立の改善に努めました。

感染症の予防

手洗い方法の確認や、厨房外へ出る際の着衣の変更、次亜塩素酸によるトイレの消毒、体調のチェックを行い、感染症予防に対する意識の向上を行いました。

ヒヤリハット件数

前年度のヒヤリハット件数は合計で 14 件でした。

前年度のヒヤリハット件数は合計で14件でした。

内容は調理：7件 ケガ：1件 異物混入：1件 請求：1件 献立：1件 その他：3件。

今年度のヒヤリハット件数は調理1件 その他：1件の合計2件となり、前年度と比較してかなり少ない件数になりました。

次年度もケガのない、安全な調理環境を保てるよう努力していきます。

平成27年度 内部研修の報告

利用者様・ご家族様・地域の方々に信頼される質の高いサービス提供に向けて、全職員の資質の向上に取り組みました。

特に、介護職員の人材育成のためにOJTを強化しました。

合わせて、管理職員の研修を充実し「管理職員から中堅職員と新人職員」に伝達できるような仕組みにしました。

平成27年 4月 5日 新入職員	「オリエンテーション」
11日 新入職員	「オリエンテーション」
	「基本介護」
22日 管理職員	「サービスマナー あいさつ・言葉遣い・コミュニケーション」
	「オリエンテーションから始まる人材育成」
5月 9日 管理職員	「リーダーとしての心得・人材育成・サービスマナー」
13日 管理職員	「事故防止」
29日 介護職員	「接遇」
	「サービスマナー あいさつ・言葉遣い」
6月 3日 新人職員	「褥そう防止」
9日 新人職員	「オリエンテーション」
24日 全職員	「守秘義務」
26日 管理職員	「看取り介護」
	「排泄」
7月 6日 全職員	「事故防止 事例検討」
19日 介護職員	「コミュニケーションが仕事を円滑にする」
24日 管理職員	「事故防止」
24日 全職員	「口腔ケア研修会」
29日 介護職員	「認知症の人との接し方」
8月 12日 新人職員	「オリエンテーション」
15日 介護職員	「虐待」
17日 介護職員	「虐待」
19日 介護職員	「虐待」
21日 管理職員	「サービスマナー コミュニケーション術」
26日 介護職員	「個人情報保護について」
9月 14日 管理職員	「リーダー、サブリーダーの育成」
17日 ケアマネ	「短期入所生活介護の計画書について」
18日 管理職員	「事故防止・サービスマナー」
27日 介護職員	「事故対応、ヒヤリハットの情報の共有」

9月27日	介護職員	「事故対応、ヒヤリハットの情報の共有」
10月16日	管理職員	「介護職員の心構えによる人材育成」
29日	事務職員	「社会福祉法人会計入門」
11月 2日	新人職員	「オリエンテーション」
	介護職員	「個別の計画 ケアプラン等」
20日	管理職員	「リーダーのマネジメント力向上」
26日	全職員	「感染症及び食中毒の予防及びまん延防止」
12月16日	全職員	「感染症及び食中毒の予防及びまん延防止」
18日	管理職員	「事故防止対策」
23日	管理職員	「栄養ケアマネジメント」
平成28年 1月22日	管理職員	「虐待防止・拘束廃止」
27日	全職員	「身体拘束廃止について」
2月19日	管理職員	「看取り介護」
3月18日	管理職員	「平成27年度を振り返って」

- ・平成27年度の内部研修は41回行い、延べ394名（正職員・非常勤職員）の職員が内部研修に参加しました。
- ・新入職員にはオリエンテーションを行い、指導担当者による指導と業務内で行うOJTにより介護技術の習得が出来ました。
指導にあたる先輩も指導を受ける後輩も、共に学び合う事が出来て向上につながったものと思います。

平成 27 年度 事故防止会議 事業報告

事故防止会議は、平成 27 年度の目標「やさしさと笑顔あふれる介護」を目指し、施設全体の事故防止に取り組みました。

毎週水曜日に、施設顧問医師の指導・助言をいただき会議を開催し、施設内で起こった特に重要なヒヤリハット事例、並びに事故等の事例を検証し、原因と対策を考察しました。それによって、再発防止に取り組みました。

事故が発生した時には、ご家族に連絡するとともに、行政に対して事故報告書を提出しました。

些細なことと見なされがちな、小さな傷や内出血もヒヤリハットとして報告することで、介助の方法を見直し、より安全な介護につなげることが出来ています。

ヒヤリハット事例が起こった時には、ヒヤリハット報告書を提出すると共に、多職種で現場に集まって検証を行い、その後原因と対策を考察しています。このヒヤリハット報告書の流れをスムーズにすることで、事例及び対策の周知徹底を図ることができました。

ヒヤリハット事例の発生状況は以下の通りです。

平成27年度 苦情対策会議事業報告

平成27年度も、利用者様やご家族様から寄せられた、苦情やご意見、ご要望に対し、真摯に取り組みました。月に一度、苦情対策会議を開き、対応や改善すべき点について話し合いを持ちました。

また、入所時には苦情の受付についてご案内し、利用者懇談会等でもお伝えし、様々な意見を言い出しやすい雰囲気作りを心がけています。

① 要望・・・・・・・・・・・・・・・・ 7件

利用者様ご自身から、食事の形態やおやつについての要望・希望がありました。

これら以外にも、ケアプランを立てる時や、利用者懇談会等でも多くの希望を伺いました。それらを個別のプランに反映させたり、全体の献立に生かすこともできました。

② 苦情・・・・・・・・・・・・ 24件

寄せられた苦情に対して、以下のような取り組みを行いました。

ルールの徹底を図った	10件
謝罪した	6件
丁寧な説明を行った	3件
相談	2件
様子を見た	2件
新たな対策を講じた	1件

③ 提案・・・・・・・・ 1件

第三者委員・・・・・・・・ 58件

第三者委員の方が来園され、利用者様のご意見やご要望を聞き取って下さいました。多くの利用者様が、この施設で、安心して生活し、それぞれに楽しみも持っていることを語っておられます。

その他

第三者評価の利用者アンケートを実施しました。